

総合的病害虫管理（IPM）検討会 第2回果樹専門部会の議事概要

1. 日時 平成18年2月24日（金） 13:30～16:45

2. 場所 経済産業省別館827号会議室

3. 出席者

果樹専門委員

芦原 亘（（独）農業・生物系特定産業技術研究機構 果樹研究所 生産環境部 上席研究官）

伊藤 伝（（独）農業・生物系特定産業技術研究機構 果樹研究所 リンゴ研究部 病害研究室長）

加藤 彰宏（大阪府立食とみどりの総合技術センター 都市農業部 主任研究員）

田代 暢哉（佐賀県果樹試験場 専門研究員）

多々良明夫（静岡県農業試験場 土着天敵プロジェクト 研究主幹）

農林水産省

伊地知 俊一 大臣官房参事官（兼消費・安全局）

安藤 由紀子 消費・安全局植物防疫課 課長補佐（防除班担当）

4. 配付資料

資料1 IPM実践指標モデル(カンキツ)(案)

資料2 都道府県におけるIPM要素技術の普及状況

資料3 カンキツ病害虫の要防除水準

資料4 カンキツ害虫の土着天敵

資料5 IPM実践指標モデル(カンキツ)策定のスケジュール(案)

参考資料1 総合的病害虫管理（IPM）検討会野菜専門部会及び果樹専門部会開催要領

参考資料2 総合的病害虫管理（IPM）検討会第1回野菜専門部会及び果樹専門部会議事概要

参考資料3 総合的病害虫・雑草管理（IPM）実践指針

参考資料4 IPM実践指標モデル（水稻）

5. 議事概要

(1) IPM実践指標モデル(カンキツ)案の策定について

議事の概要等は以下のとおり。

IPM実践指標モデル（カンキツ）案について「病害虫の発生しにくい環境の整備」「防除要否及びタイミングの判断」「防除」に分けて検討を行った。

生産者がI P Mの取組について理解する必要があることから、管理項目の前に「病害虫・雑草の発生しにくい環境の整備」等の分類を設定することとなった。また、雑草管理については、清耕栽培及び草生栽培のいずれも雑草管理に除草作業を含んでいる点では同じであることから、それらについて分けずに作成することとなった。

検討の結果、カンキツの指標モデル作成については、以下の点について考慮することが確認された。

病害虫の発生しにくい環境の整備

- ・ 「適正な植栽密度の維持」は、間伐、縮伐などによる防除作業等の効率化を主眼にしており、「せん定」とは意味合いが異なることから、別の管理項目とする。
- ・ 「病害の伝染源の除去」は、発生を見た罹病枝等を除去するという観点から、「せん定」とは別の管理項目とする。
- ・ 「害虫の発生源の除去」について、カンザワハダニなどの具体例を注で記載する。
- ・ 「ウイルス病」の管理項目は、毎年評価するものではないが、カンキツ栽培では重要なので管理項目として設定する。
- ・ 収穫果の果実腐敗対策は、カンキツの基本的なI P M要素技術であることから、管理項目として設定する。

防除要否及びタイミングの判断

- ・ 「防除の要否の判断」のうち、雑草については要防除水準がないので、管理ポイントで判断基準を記載する。
- ・ 「黒点病」については、地域の雨量を把握することが重要であるから、農家が自分で雨量を測ることを管理ポイントとする。
- ・ そうか病、灰色かび病及びかいよう病について、適期防除が重要であるので、農家がかんきつの生育状況を把握する管理項目を設定する。
- ・ 「かいよう病」については、台風対策についても管理ポイントを設定する。
- ・ 病害についても園内を見回り発生状況を把握する項目を設定する。

防除

- ・ 自分の園地の天敵を知ることはI P Mによる管理上重要である。
- ・ 代表的な天敵の写真等を参考資料として添付する。
- ・ 「導入天敵の活用」については、定着している産地では必要ないが、天敵の数が少なくなれば近隣から導入する必要がある。
- ・ 「天敵に影響の少ない農薬の選択」については、農薬の特徴を把握することを注記する。
- ・ 「光反射シートの被覆」の被覆時期については、地域によって異なることから、本モデルで明示しない。
- ・ 「雑草管理」については、草種及び生育状況を確認し、適切な除草剤を選択することが重要である。

(2) 今後のスケジュール

今後の指標モデル作成の進め方について、モデル案を専門部会でとりまとめ、第5回I P M検討会で報告することが確認された。